

## 学校がくれた出会い

小学四年 菅生 紗来

「学校楽しみだな。」

わたしは、一年生のころ自分一人だと思っていたバスでいにかわいいキーホルダーをつけたお姉さんがいました。その日はじめての学校だったので、同じバスでいから乗る人がいて安心しました。次の日もその次の日もそのお姉さんがいて、仲良くなりいっしょに行きたいと思ったので、自分から話しかけてみました。そしたらお姉さんが、

「そのせいふくかわいいね。」

と言ってくれました。だから、自分の学校をほこりに思えました。同じバスでいから乗っている、お姉さんと友達になったことを家族に話しました。そしたらお母さんから、

「心配していたからよかった。」

と言われたので、心配してくれていたんだと思うとむねが、温かくなりました。

しょう来のゆめについてお姉さんと話していたら、

「わたしは、かんごしになることがゆめなんだ。」

と教えてくれました。でも、行きたい病院のしけんに合格したら今行っているバスとは、反対方面になってしまうと言われたので、おうえんしたいという気持ちはあるけど、同じバスで行きたいという気持ちもあったので、ふくざつでした。もし合かくしたら、三年生までしかいっしょに行けないんだと言われて、ますます今の時間を大切にしなきゃと思うようになり、学校に行く時が毎日の楽しみになりました。

わたしは四年生になりました。お姉さんのように年下の子を安心させてあげられるように自分から声をかけてあげるようにしています。お姉さんはゆめをかなえて別々のバスになってしまったけど、反対側のバスでいいにいるお姉さんに手をふるのが毎日の楽しみです。